

## 平成29年度地方創生交付金活用事業の評価結果について

企画政策部

### 1 評価の概要

本市では平成29年度に国の地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金を活用して事業を実施した。

地方創生の推進に当たっては、客観的な評価指標となる重要業績評価指標（KPI）を設定し、効果的なPDCAサイクルの確立が求められている。

このことから、外部有識者等で構成する、君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議を開催し、事業の効果検証を実施したので結果を公表する。

### 2 評価方法

商工団体・大学・金融機関等で構成する君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議委員による外部評価。

### 3 評価結果

別紙「地方創生交付金活用事業の評価結果」のとおり

### 4 今後のスケジュール

5月下旬 市HPにて公表

地方創生交付金活用事業の評価結果(地方創生推進交付金)

No	① 交付対象事業の名称	② 交付対象事業の概要	③ 事業費 (実績値)  単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑤ 本事業終了後における実績値	⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について		
				指標	指標値	単位	目標年月		実績値	事業効果(対KPIを基本に判断) A:目標とする成果が得られた。 B:概ね目標とする成果が得られた。 C:目標の半分程度の成果が得られた。 D:目標とする成果があまり得られなかった。 E:目標とする成果が得られなかった。	有効性 A:目標達成に有効な事業といえる。 B:目標達成に有効な事業とはいえない。	今後の方針	今後の方針の理由
1	世界に一番近い「SAT OYAMA」プロジェクト (予算事業名:地方創生広域連携事業)	<p>【事業目的】 東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、地域資源を活かした取組を広域連携で進め、世界の「SATOYAMA」として観光地のブランド化を図り、地域経済の活性化を目指す。</p> <p>【事業内容】 ①清水溪流広場の補修用材木購入 ②体験型観光に係る備品購入及びマーケティング調査 ③期間限定バス路線の運行 ④(交付金対象外) Free Wi-Fi SPOTの整備 ⑤観光おもてなしセミナーの開催 ⑥ジビエ等の商品開発 ⑦有害鳥獣捕獲の民間委託</p>	23,745,054	指標①	観光入込客数	3,474	千人	H31.3	2,960	C評価 ※複数人で評価し、最も多かったものを採用。	A評価 ※複数人で評価し、最も多かったものを採用。	事業内容の見直し(改善)	個々の事業が相互に関連し合い、最終的に里山の魅力へと繋がっていくようコンセプトを再度、共有しながら実施していく。
	指標②							<p>主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客おもてなしセミナーは観光客目線を強く意識して取り組んでおり評価できる。</li> <li>観光入込客数が減少している。SNS人気は一過性のものなので、それに過度に依存するのは危険である。持続的な観光のあり方について長期的視点に立って検討する必要がある。</li> <li>清水溪流広場の補修を実施したことや体験型観光に力を入れていることを評価します。</li> <li>滞在型が地域内の人の流れを促進させるキーワードになると思われるが、その視点が本事業の中に見られない。</li> <li>事業をやっただけでなく、その後の効果と波及状況を把握していくべきだと思う。</li> </ul>					
	指標③							<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと中房総の里山をめぐるコンセプトを定め、地域資源の魅力化を膨らませる構想を練った上で、進行中の諸事業を位置付け直し、広域連携を作り出していくことが問われるのではないか。</li> </ul>					
	指標④							<ul style="list-style-type: none"> <li>里山をめぐるコンセプトは、観光や有害鳥獣対策のみならず、健康・教育・農業・都市計画・起業など多方面との関わりがあり、多くの人たちを巻き込みうるものだけに、さらなる練り込みが必要である。</li> </ul>					
	指標⑤							<ul style="list-style-type: none"> <li>広域連携はとても重要なので、これらのコンセプトを共有しながら、有機的な役割分担が図られることを期待したい。この広域連携は、地方創生のみならず、今後の中房総地域にとって必要不可欠であることも理解されたい。</li> </ul>					

